

為替週間展望 = ドル円は上昇基調で推移か

[9月12日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		9月5日～9月9日				
	始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	140.26	144.99(7)	140.01(5)	142.87	+2.67	
ユーロ・ドル	0.9950	1.0084(9)	0.9864(6)	1.0069	+0.0115	
=====						
国内株・金利/米国株・金利						
	終値		前週末比		終値	前週末比
日経平均株価	28,214.75	+563.91	日本10年債利回り	0.256	+0.015	
ダウ平均株価	31,774.52	+118.10	米10年債利回り	3.317	+0.128	
=====						

<来週の主要経済統計等>

12日 英7月鉱工業生産指数、英7月製造業生産指数、英7月貿易収支

13日 英8月雇用統計

独8月消費者物価指数

独9月ZEW景況感指数

米8月消費者物価指数

米8月財政収支

14日 NZ第2四半期経常収支

日本7月機械受注高

日本7月鉱工業生産指数

英8月消費者物価指数、英8月生産者物価指数、英8月小売物価指数

スイス8月生産者・輸入価格

ユーロ圏7月鉱工業生産指数

米8月生産者物価指数

カナダ7月製造業出荷

15日 NZ第2四半期GDP

日本8月貿易収支

豪8月雇用統計

ユーロ圏7月貿易収支

英中銀(BOE)政策金利

米新規失業保険申請件数、米9月NY連銀製造業景気指数

米8月小売売上高、米9月フィラデルフィア連銀景況指数

米8月輸入価格指数

米8月鉱工業生産・設備稼働率

16日 中国8月鉱工業生産指数、中国8月小売売上高

英8月小売売上高

ユーロ圏8月消費者物価指数

カナダ7月卸売上高

米9月ミシガン大学消費者信頼感指数

米7月対米証券投資

【前回のレビュー】9月のFOMCでの利上げ幅は今後の経済指標などのデータ次第となりそうだが、断固としたインフレ抑制を強調するFRB当局者の発言からは、0.75%の利上げ確率が高いと見込まれる。こうした中、ドル円は堅調な流れを維持して、一段と上値を迫る展開になるとした。

【各国中銀の利上げで円売りが加速】

8月26日のジャクソンホールでの米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長

の講演以降、ドル買い円売りの流れが続いている。F R Bによる積極的な利上げ観測が米長期金利の上昇とともにドル買いの動きにつながっている。

経済成長の鈍化などの痛みを伴ってでも、インフレを抑制する強い意向を示したこと
がドル買いの動きにつながっている。また、各国中銀による利上げや利上げ見通しに対
して、対照的に日銀が緩和姿勢を維持しており円売りの動きにつながっている。

6日には豪中銀（R B A）が0. 5 0%の利上げを実施した。5 会合連続での利上げ
となり、4 会合連続で0. 5 0%の利上げとなった。7日にはカナダ中銀（B O C）が
0. 7 5%の利上げを決めた。6日に米国では好調な経済指標を受けて、米連邦準備制
度理事会（F R B）による利上げが意識されて、一時1 4 3円台まで上昇した。7日に
は1 4 5円目前の1 4 4. 9 9 近辺まで上昇を見せた。ドルインデックスは7日に1 1
0. 7 8 6 付近まで上昇を見せた。

ドル円は短期的な過熱感を背景に1 4 5円接近の後は伸び悩みを見せている。1 9 9
8年8月以来、2 4年ぶりのドル高円安の水準となったことで、利益確定の売りも出や
すくなったとみられる。また、米1 0年債利回りは7日に3. 3 6 0%前後まで上昇し
た後は高値圏でもみ合いとなっている。

パウエルF R B議長は8日の講演で、インフレ抑制のために利上げを継続する姿勢を
示した。発言内容に目新しさはなかったものの、9月のF O M Cでの0. 7 5%の利上
げが一段と織り込まれた格好となっている。C M E F E Dウォッチでは、9月のF O
M C（2 0～2 1日）での0. 5 0%の利上げ確率は1 4%前後、0. 7 5%の利上げ
確率は8 6%前後となっている。

1 3日に8月の米消費者物価指数の発表がある。市場予想と比べて伸びが急減速しな
い限りは、今月のF O M Cでの大幅利上げは避けられないとみられる。その場合、ドル
の底堅い動きは継続することとなりそうだ。ドル円は高値圏でもみ合いながらも上昇基
調で推移することとなる。ドル円の目先の予想レンジは、1 4 0. 0 0～1 4 8. 0
0円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、1 3日に米8月消費者物価指数、米8月
財政収支、1 4日に日本7月機械受注高、日本7月鉱工業生産指数、米8月生産者物価
指数、1 5日に日本8月貿易収支、米新規失業保険申請件数、米9月N Y連銀製造業景
気指数、米8月小売売上高、米9月フィラデルフィア連銀景況指数、米8月輸入価格指
数、米8月鉱工業生産・設備稼働率、1 6日に米9月ミシガン大学消費者信頼感指数、
米7月対米証券投資などがある。

【E C Bは0. 7 5%の利上げ】

欧州中央銀行（E C B）は8日の理事会で、政策金利を0. 7 5%引き上げることを
決定した。声明文では、インフレ率の持続的な上昇のリスクから守るため、今後数回の
会合では金利をさらに引き上げると予想している。金融引き締めで景気が減速してもイ
ンフレの抑制を優先する意向を示した。

理事会後の記者会見でラガルド総裁は、インフレ率はあまりにも高く、今後数回の理
事会でさらに利上げを続ける意向を示した。E C Bのスタッフ予測では、2 0 2 2年の
インフレ見通しを6月予想の6. 8%から8. 1%に上方修正した。2 0 2 3年は6月
予想の3. 5%から5. 5%に上方修正した。

ロシアの国営ガスプロムは、ロシアから欧州へ天然ガスを送るパイプライン「ノルド
ストリーム1」を無期限で停止するとしている。ロシアのベスコフ大統領補佐官は、西
側諸国による制裁が解除されるまで、天然ガスの供給停止を継続する可能性を示唆し
た。

ノルドストリーム1の停止により、欧州ではエネルギー調達への警戒感や景気減速への
懸念が広がっている。こうした動きがユーロドルの重石となっており、6日には0.
9 8 6 4 前後まで下落した。急速なドル買いが進んだ反動やE C Bによる大幅利上げ観
測などを受けて、7日には1ユーロ＝1ドルを回復したものの、その後は上値の重い流
れが続いている。E C Bは大幅利上げしたものの、ラガルド総裁が理事会後の記者会見

で「次回の利上げは0.75%である必要はない」と発言したことがユーロドルの上値を抑えている。

ユーロ圏でのインフレ抑制のため、今後も利上げが継続するとの見方はユーロドルを支えるものの、天然ガス供給への警戒感やユーロ圏の景気減速懸念などが上値を押さえそうだ。こうした中、ユーロドルは1ユーロ=1ドルのパーティを挟んでの振幅が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9800～1.0100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、12日に英7月鉱工業生産指数、英7月製造業生産指数、英7月貿易収支、13日に英8月雇用統計、独8月消費者物価指数、独9月ZEW景況感指数、14日にNZ第2四半期経常収支、英8月消費者物価指数、英8月生産者物価指数、英8月小売物価指数、スイス8月生産者・輸入価格、ユーロ圏7月鉱工業生産指数、カナダ7月製造業出荷、15日にNZ第2四半期GDP、豪8月雇用統計、ユーロ圏7月貿易収支、英中銀（BOE）政策金利、16日に中国8月鉱工業生産指数、中国8月小売売上高、英8月小売売上高、ユーロ圏8月消費者物価指数、カナダ7月卸売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。